



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

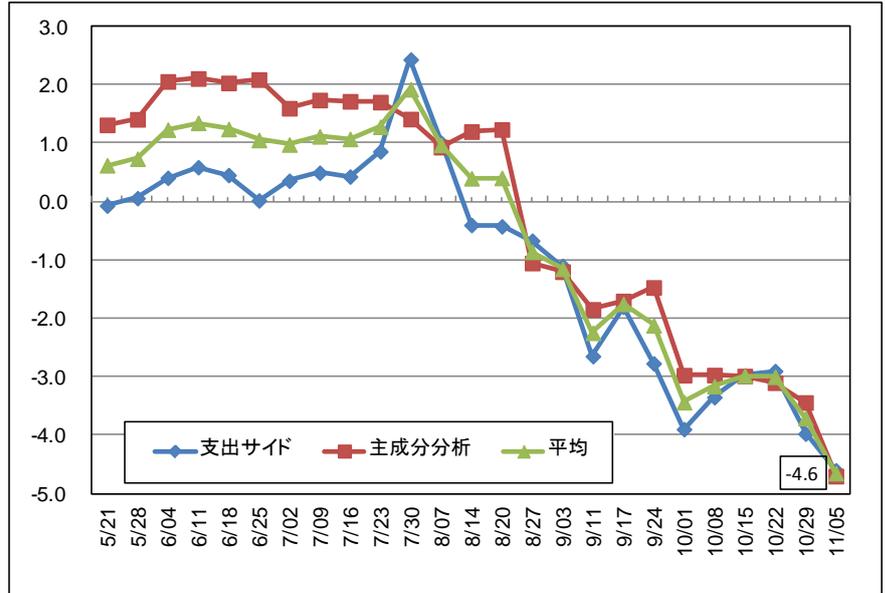
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2012年11月5日)

## ポイント

- ▶先週は、10月の乗用車新車販売台数、財政対民間収支、9月の労働力調査、毎月勤労統計、鉱工業生産指数、家計調査、商業販売統計、新設住宅着工及び8月の建設工事費デフレータが更新された。
- ▶これらのデータは、主として民間住宅、民間企業設備の予測値に影響を及ぼす。
- ▶今週のCQM予測(支出サイド)は、7-9月期実質GDP成長率を、内需と純輸出がともに縮小するため前期比年率-4.6%と予測。先週(-4.0%)から更に下方修正された。
- ▶12日に7-9月期GDP統計1次速報値が発表されるため今回は最終予測となる。グラフが示すように8月以降、成長率予測は一貫してマイナスのトレンドを示している。これまでの予測経験ではリーマンショック以来である。不況入り(2期連続のマイナス)を示唆するほど景気後退は進行している。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2012Q3 (%，前期比年率換算)



## <景気後退が進行する日本経済：7-9月期実質GDP成長率の最終予測は-4.6%>

先週(10/29-11/02)は、10月の乗用車新車販売台数、財政対民間収支、9月の労働力調査、毎月勤労統計、鉱工業生産指数、家計調査、商業販売統計、新設住宅着工及び8月の建設工事費デフレータが更新された。これらのデータは、民間住宅、民間企業設備、民間企業在庫品増減、公的固定資本形成及び雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。新たな月次指標を更新した今週のCQM予測(支出サイド)は、7-9月期実質GDP成長率(前期比年率換算)を、内需と純輸出がともに縮小するため-4.6%と予測。先週の予測(-4.0%)から更に下方修正となった。

景気はすでに後退局面に入っていると思われる。9月の鉱工業生産指数は前月比3ヵ月連続のマイナス。このため、7-9月期は前期比-4.2%と大幅に低下し2期連続のマイナス。9月の資本財出荷指数は2ヵ月ぶりに低下したため、7-9月期は前期比-11.3%と厳しい結果となっている。この結果、同期の実質民間企業設備を前期比-3.8%と予測している。また9月の建築工事費予定額(居住用)は2ヵ月連続の前月比マイナスとなったが、7-9月期は前期比+3.5%と3期連続のプラス。このため7-9月期の実質民間住宅の予測値は前期比+1.7%とプラスだが先週から小幅下方修正された。

今週は、民間企業設備と民間住宅を説明する月次指標が悪化したため、実質GDP成長率予測は更に下方修正された。12日に7-9月期のGDP統計1次速報値が発表されるため、今回は同期の成長率予測の最終週である。グラフからわかるように、7月の基礎データが予測に反映された8月以降、成長率予測は一貫してマイナスのトレンドを示している。このようなことは、最近の予測経験ではリーマンショック以来で、08年10-12月期、09年1-3月期に見られた予測の動態パターンとよく似ている。不況入り(2期連続のマイナス)を示唆するほど景気後退は進行しているといえよう。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550